



あすなろ

第29号

発行 弘前大学教育学部同窓会
〒036-8560 弘前市大字文京町1
TEL. 0172 (36) 2111 代表
編集事務局
弘前市豊原1丁目1の3
弘前愛成園立花園保育園内
TEL. 0172 (33) 6250



平成二十年を迎えて

教育学部同窓会会長 木村 清之助

近年の地球温暖化の話題と程遠い厳しい寒さの続く新年を迎えましたが、会員の皆様如何お過ごしでしょうか。

今年はず平成になってから二十年になりました。改めて「光陰矢の如し」を実感しています。昭和の二十年を顧みると、満州事変、支那事変、太平洋戦争と、戦争に明け暮れた時代でした。そして戦争終結後に残されたのは、焼け野原と化した国土と、食料難に苦しむ人々でした。しかし戦後は戦争の反省に立って、平和国家建設のため、食糧増産を始め社会基盤の整

備、教育改革などに取組み、二三十年の間に復興を成し遂げて世界の先進国の一員になりました。さて、この平成の二十年はどうでしょうか。昭和の二十年とは一転して自由と平和の享受時代ともいえるような年月を送っています。しかし昭和の時代では信じられないような、食に関する事件や殺人事件などいろいろな事件事故が連日のように報じられる社会になりました。これは平和ボケと言で済まされる事ではなく、国の盛衰に関わる重大な分岐点に立っているように思われてなりません。

ゆとり教育が学力低下を招いた。すると今度は時間数と内容の増加へ、というように、対症療法的な施策が教育に限らずいろいろな分野で見られます。百年の計とまではいなくても、もう少し安定した予防的・開発的な施策が欲しいものです。学校で学ぶ子どもたちはやり直しのできない毎日を歩んでいるのですから。

最近「少子化」の進行が問題になっていきます。そこで、当然のように学級減や教師減、学校統合が始まります。しかし逆にこの機会を活用して少人数学級、個別指導の徹底など、世界の範となるような改革ができないものでしょうか。教員養成の研究が報われるためにも、と思索するこの頃です。



六年間をふり返って

教育学部長 佐藤 三三三

地球の温暖化が、人類の生死に関わる、極めて現実味を帯びた危機として叫ばれるようになりました。無限の両極にあった「私の問題」と「地球の問題」がこんなにも近づいてしまったことに驚いています。大変大きな話題から始まりましたが、今回は、三期六年の学部長の任務を終えるに当たって、小さな私的な思い出・感想を記すことをお許しただきたいと思えます。

① 一番苦しくつらかったことは、秋田・岩手大学との教育学部の統合問題です。学部長になったその日から突然降って湧いたようにこの問題が具体化しました。

「私の代で、弘前大学教育学部の歴史を止めてはならない。」その一心で、やみくもに突っ走りました。

② 一番うれしかったことは、「教員養成学研究所開発センター」の設置が文部科学省に認められたことです。これで教育学部が変わったように思います。

③ 一番楽しかったことは、附属四校園の児童・生徒の様々な行事を参観できたことです。「学部長の役得」だと思えました。入学式や卒業式の挨拶で、一番私を助けてくれたのは、幼稚園児でした。私の問いのすべてに過

④ 一番めぐり合わせを感じたことは、「最後」の国立弘前大学教育学部長であり、「最初」の国立大学法人弘前大学教育学部長の肩書きを得たことです。

⑤ 一番感謝したことは、そして、今も心から感謝していることは、学部・附属の先生方と事務職員の方々、そして同窓会の皆様の強い支えでした。最後に一番むなしかったことは、頑張っても頑張っても終わりのないことでした。「競争社会」のむなしさです。皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。



教育学部副学部長・基本構想会議議長 北原 啓司

教育学部をまるごと乗せたバスが地域を走り回る!!

今回は教育学部同窓会の皆様にご報告があります。平成20年度文部科学省概算要求特別教育研究経費に申請していただきました教育学部からの「青森県における小・中・高等学校を対象とした教育力向上プロジェクト—ラポ・バスを用いた教育実践—」が、昨年末に採択の内示を受けました。申請額は約1億円に達するものであり、ほぼ満額支給されることになりそうです。

本事業は、弘前大学と青森県との包括協定の下、青森県教育委員会等と連携して、下北・三八地域等の県内遠隔地へ、ラポ・バスを活用した児童・生徒の指導に関わる教育支援活動を通して、教員を目指す本学の学生に多様な教育実践の場を与え、教員養成の質的向上を目指そうとするものです。具体的には大型バスを改造して、小・中・高等学校の教育現場で学習支援を行うための最先端の教材・機器（特に理数系の授業）を搭載し、県内各地に学部教員及び学生・大学院生が向いていくものです。この事業では、児童・生徒に「学び」の楽しさを伝えるとともに、現職教員の研修の場も提供したいと考えています。また、教育現場における実践経験が限られている学生・大学院生にとっても貴重な

経験の場となり、距離のハンディを克服するために購入するラポ・バスを用いた継続的な取り組みを進めることによって、教師としての資質を持続的に高めていくという、教員養成機関に課せられた今日的な基本目標の実現が可能となるはずで、一方、ラポ・バスは当該地域に我々が学生とともに向くだけでなく、地域の児童・生徒を弘前大学において実施する夏期休暇中の学習機会（サマースクール）に招待するなど、双方向の移動教室として機能することが期待されています。これらの総合的な取り組みの推進により、地域の教育力及び弘前大学教育学部の教員養成の資質向上を目標として申請した今回の概算要求でしたが、それを実現させることが可能となった現在、プロジェクトチームを設置し、青森県教育委員会および対象モデルとして下北地域の教育委員会と協議を進めているところです。本年二月七日には、青森県教育委員会と本学部との念願の連携協定が締結されました。これにより、これまでの様々な連携協力の体制がさらに強化されると同時に、先に説明しました新しい取り組みを裏切るものとして進めていくことが可能となります。

ここ数年、佐藤学部長を中心に進めて参りました教員養成学部としての特性を重視した学部の様々な改革により、教員養成学研究開発センターの設置が認められ、また今年度は文部科学省が想定する新たなカリキュラム科目である教職実践演習（仮称）のモデル事業が採択され、そして来年度の概算要求と、これまでの取り組みが、

国内でも高く評価され、また今後の発展が期待されていることの証であり、身の引き締まる心境です。これも、県内各地域の教育に関わる様々な場面で、同窓会の皆様に力強い御支援や暖かい励ましをいただいていたその賜であると、心から感謝いたしますとともに、今後一層の御指導を、何とぞよろしくお願い申し上げます。

附属国際音楽センターの活動

教育学部附属国際音楽センター 副学部長 浅野 清

教育学部附属国際音楽センターのことは知らない、聞いたことがない、と言っているのを耳にすることがよくあります。学内ですら「そんなセンターがあつたなんて一体何をするとところなのか」と訊かれることがある程です。この場を借りて、同窓会の皆様に説明をさせていただきます。

た研究者の集団である『特定プロジェクト教育研究センター』の一つとして、三年の期限付きで設置・認可されました（先頃、あと三年の延長が認められました）。センターの主な業務内容は
① 外国の音楽家・研究者との交流
② 音楽教育の振興
③ 地域の音楽に関する調査及び情報の収集
④ その他、音楽に関すること

所属する教員は私を含め、今田匡彦（副代表 准教授 音楽教育）、和田美亀雄（教授 トロンボーン）、杉原かおり（准教授 声楽）の音楽実技系教員四名です。これまでの活動としてはシンポジウム「北のサウンドスケープ



音響空間とアフオーダンス」共催 日本サウンドスケープ協会、協賛 オーストリア共和国外務省、協力 在日オーストリア大使館、十四ヶ国から百二十名が参加した国際フォーラム「世界音響生態学二〇〇六弘前」（共催 日本サウンドスケープ協会国際委員会）の国際研究集会、外国の演奏家との共演による演奏会「トロンボーンリサイタル」「ヴァイオリンとピアノのデュオリサイタル」を開催しました。また研究成果の地域への還元として、センター教員による演奏会「Mostly Concert」（これまでに東京、八戸、青森、弘前、五戸、むつで開催）、公開レッスンと講義を含む「Mostly Lecture」の開催など、個人では出来ない幅広い活動を行っています。要望・要請があればどんな地域へも喜んで出向き、音楽事業の企画・協力・開催等させていただきます。是非、同窓会の皆様に御理解いただき、御支援を賜ることができますよう、ここにお願い申し上げます。



理科教員の資質向上と 理科離れ解消へ向けて

教育学部准教授 長南 幸安

PISAをはじめとする種々の調査結果から、学力低下・理科離れが指摘されています。これらを背景として「ゆとり教育」の見直しが論じられ始め、その結果として、今回の学習指導要領では、前回に削除や先送りされた学習内容が復活する予定です。特に理科教育においては改訂の度に、時間数や内容とも大きな変更を求められており、現職の先生方にとっては戸惑いが大きい教科です。

中学校や高等学校では、「ゆとり教育」の見直しとして「発展」項目を各教科書とも売りにしており、学習内容を先取りしたものや最新の科学トピックスを取りあげているケースが少なくなく、「教えたくともやったことがない」、「わからないので教えられない」という問題を現場教員は抱えています。理科教員研修を始めて三年目の今年は、このような教育現場の現状を改善するために「発展」の内容を中心とする実験・観察を取り入れた教員研修を実施しました。県教委や弘前市教委と連携を取りながら、参加教員の感想も好評であり、理科教員のスキルアップの手助けになれたと感じております。

この背景には、理系学部でも、中学校や高等学校の教員免許が取得できのに対し、小学校教員免許は文系に属する教員養成学部でないと取得が困難なため、教員養成学部には高校時に理科や数学を不得手としている、いわゆる「文系」の学生が多く、「理科が苦手」な小学校教員が多く輩出されているという現状があります。いうまでもなく、理科の特長の一つは、実験や観察を主体とした授業展開ができることであり、これこそが児童に興味関心を持たせ、理解力を深めさせる「わかる授業」実現のための大きな武器です。したがって、小学校理科において、「演示力・実験力」の向上こそが必要であり、これが「理科嫌い・理数離れ」解決への糸口になると考えました。この考えは、文部科学省の「わかる授業実現のための教員の教科指導力向上プログラム」事業に採択され、「小学校理科における『演示力・実験力』を中心とした教員養成カリキュラムの開発と教員研修への応用」というプロジェクトを現在進めているところです。このプロジェクトの成果として、是非質の高い教員を本学から送り出したいと願っております。

この結果が公表され、青森県はうれしいことに全国でも上位でした。しかしながら、漏れ聞くとところによりますと、問題は解けるが理数は嫌いという児童・生徒が多いとことです。この理数離れ解消のために、「大学であそぼうー土曜科学塾」と銘打って、無料実験教室

平成十九年度 弘前大学教育学部・同窓会懇談会

今回で四回目となる平成十九年度の教育学部と同窓会との懇談会は、平成十九年十二月五日（水）午後四時より教育学部第一会議室で行われました。

- ◎ 教育学部側からは佐藤三三学部長はじめ十八名の教官及び職員、また、同窓会側も木村清之助会長以下十八名の出席のもと、和やかな雰囲気でのような現況の報告と要望が提案されました。
- ◎ 教育学部の現況について
 - 1) 附属学校の現況について
 - 2) 附属幼稚園の現況について
 - 3) 附属小学校の現況について
 - 4) 附属中学校の現況について
 - 5) 附属特別支援学校の現況について
 - 6) むつ・下北地域との連携について
 - 7) 教育教員免許状更新講習について
 - 8) 「教員養成学研究開発センター」の現況について
 - 9) 「教員養成改革モデル事業」
- ◎ 同窓会から教育学部への要望事項
 - 1) 教員採用試験の対応・取り組みについて
 - 2) 教育学部の今後の整備計画について
 - 3) 少子化社会へ向かう中、附属学校の今後の在り方をどのように考えているか。
 - 4) 今後の学生の就職状況はどのようになるのか。
 - 5) 教員養成には今後とも卒業生（特に教員退職者）の声を生かすことが欠かせないと考えますが、現状をお知らせ下さい。
 - 6) 教育学部の学生が現場の学校でどれだけサポート活動をしているか具体的に知りたい。
 - 7) 十八年度の卒業生の採用数
 - 8) 十九年度の対策は
 - 9) 教育現場への学部としての貢献度は
 - 10) 教育学部と北五支部との意見交換（仮称）等に取り組む考えはないのか



を六回開催しました。首都圏では、塾主催の有料実験教室が何ヶ月待ちというような大人気のことですが、これに負けない内容で地域の「理科好き」な子どもたちを地域交流とともに増やしていきたいと思えます。

平成18年度決算

Table with 4 columns: 収入の部, 18年度予算, 18年度決算, 備考. Rows include 会費, 繰越金, 繰入金, 雑収入, 計.

Table with 4 columns: 支出の部, 18年度予算, 18年度決算, 備考. Rows include 総会費, 評議会費, 支部活動費, 通信費, 就職対策費, 教育開発活性化経費, 特別対策費, 臨床心理士養成経費, 教大協東北地区評議員会経費, 事務経費, 報費, 全学同窓会費, 事務局費, 雑費, 計.

2,473,711 - 2,462,405 = 11,306円 (次年度へ) 繰り越し

平成19年度予算

Table with 4 columns: 収入の部, 18年度決算, 19年度予算, 備考. Rows include 会費, 繰越金, 繰入金, 雑収入, 計.

Table with 4 columns: 支出の部, 18年度決算, 19年度予算, 備考. Rows include 総会費, 評議会費, 支部活動費, 通信費, 就職対策費, 教育開発活性化経費, 特別対策経費, 社会教育主事講習経費, 臨床心理士養成経費, 教大協東北地区評議員会経費, 事務経費, 報費, 全学同窓会費, 事務局費, 雑費, 計.

庶務報告

- 18. 3. 同窓会費納入依頼
18. 6. 17 平成19年度総会
18. 6. 23 採用試験の援助活動(模擬面接)
18. 6. 18 五所川原・北郡支部コンサート
18. 9. 30 弘前大学教育学部創立130周年記念
18. 11. 29 同窓会・教育学部懇談会
19. 2. 13 教員養成学研究開発センターシンポジウム
19. 3. 23 弘前大学卒業式・祝賀会
19. 3. 7 会報「あすなろ28号」発行
19. 6. 16 会計監査

平成十九年度の定時総会は、平成十九年六月十六日(土)午後二時より、パークホテルにおいて開催された。当日は二十五名の参加者のもと、議長に花田幸三氏(弘前市)を選出し、活発な討議が行われた。討議は、十八年度の決算報告や十九年度の予算審議等のほか、次の事が話題となった。それは、弘前大学の名簿を作成すると称して、個人情報及び振り込み詐欺まがいのことをしているのに注意すること。また、県教委で発行している職員名簿に出身大学も住所も載らなくなったので、会報の配送や連絡するのが不便になったこと、会費の納入が依然として低調なのでどうしたらよいか等であった。

定時総会報告

平成十九年度 弘前大学教育学部同窓会

事業計画

特別会計基金

- 1. 同窓会費納入 《青森銀行関係》 8,528,451 - 1,000,000 + 459 = 7,528,910円 (利息)
2. 総会 (1,000,000円は、弘前大学教育学部創立130周年記念事業の特別援助金です。
3. 教員採用試験の援助活動 8,113,688 - 500,000 + 5,523 = 7,619,211円 (H18年度予算へ)(利息)
4. 同窓会・教育学部懇談会 7,619,211 - 220,500 = 7,398,711円
5. 会報「あすなろ29号」発行 (予算不足のため、「あすなろ28号」の支払い220,500円)をH18年度へ繰り入れしたものです。
6. 弘前大学卒業式・祝賀会
7. その他

平成十九年度役員

- 名譽会長 佐藤 三三(学部長)
顧問 齋藤 善三(弘前市)
副会長 木村清之助(弘前市)
会長 笹 良夫(青森市)
会計・監査 工藤 睦男(弘前市)
支部長 菅森 義男(弘前市)
1. 弘前・中郡支部 横山 岩雄(小和森小)
2. 黒石・平川・南郡支部 齊藤 光正(梅沢小)
3. 五所川原・北郡支部 屋敷 政勝(森田小)
4. つがる・西郡支部 奈良 年永(青森市)
5. 青森・東郡支部 澤田 明久(吹上小)
6. 八戸・三戸郡支部 津田 久文(苦生小)
7. 三沢・十和田・上北郡支部 廣野 雅実(野辺地町)
8. むつ・下北郡支部 鎌田耕太郎(教育学部)
9. 弘前大学教育学部支部
10. その他の地区支部
2. 黒石・平川・南郡支部 秋田 豊(弘前市)
3. 五所川原・北郡支部 阿彦 正弘(五所川原南小)
4. つがる・西郡支部 坂本 寛(風合瀬小)
5. 青森・東郡支部 須藤 努(青森市)
6. 八戸・三戸郡支部 成田 誠二(八戸市)
7. 三沢・十和田・上北郡支部 岩田 繁雄(十和田市)
8. むつ・下北郡支部 竹浪 和夫(むつ市)
9. 弘前大学教育学部支部 菅山 正明(教育学部)
10. 常任委員 相馬 正栄(花園保育園)